## 平成 28 年度の経過

### 熊本地震発生後の熊本城緊急工事内容

○民間の敷地や道路に崩落した石垣の回収。
○飯田丸五階櫓など建物の倒壊防止作業。
○地盤亀裂への雨水対策のため白色シートでの養生工事。
○天守の早期復旧のため、工事車両道路の確保。

以上４点を中心に優先箇所を選択しながら、工事を実施してきました。

### 頬当御門の石材撤去作業と安全対策

①崩落状況の記録（写真測量）

②崩落石材の番号付け

③崩落石材の測量（光波などのデジタル測量）

④崩落石材の撤去（１石ごと玉掛けして吊り上げ）

⑤石材置き場に仮置き

⑥石垣撤去作業完了

⑦保護シート（不織布）の設置

⑧モルタル吹付け

⑨防護ネットによる安全対策

### 熊本城内の緊急工事写真

本丸広場の雨水対策シート養生

南大手櫓門の倒壊防止工事

ワイヤーで倒壊防止（右から）田子櫓・七間櫓

天守閣復旧へのスロープ設置

# 熊本城

## ～復興に向けて～

平成 29 年 春

熊本市／熊本城総合事務所　電話：096-352-5900
熊本城調査研究センター　電話：096-355-2327

2016年3月17日撮影

## ■熊本城データ

| | |
|---|---|
| 広さ | 旧城域　約98ha（うち特別史跡51.2ha） |
| 形式 | 平山城 |
| 天守 | 大天守3層6階地下1階、小天守3層4階地下1階。（昭和35年鉄筋コンクリートにて再建） |
| 重要文化財 | 13棟（宇土櫓、田子櫓、七間櫓、十四間櫓、四間櫓、源之進櫓、東十八間櫓、北十八間櫓、五間櫓、不開門、平櫓、監物櫓、長塀） |

## ■特別史跡　熊本城跡

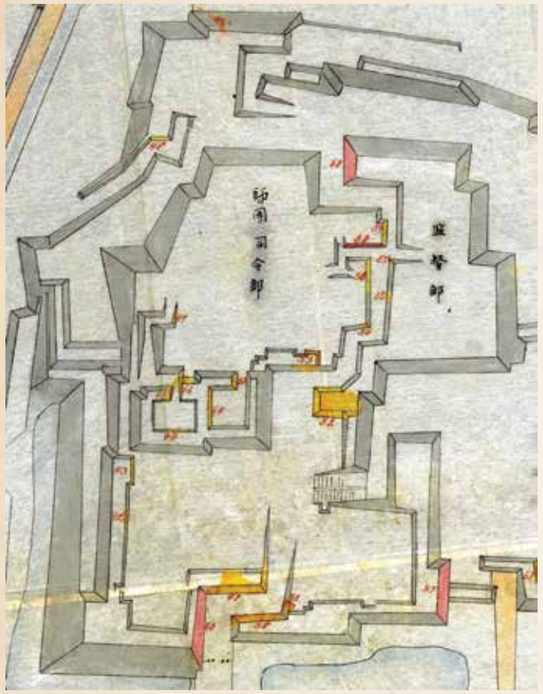
熊本城は加藤清正により、関ヶ原の戦いの頃には現在の位置に築城され始め、慶長12（1607）年に完成したとされます。周囲5.3km、総面積98haに及ぶ広大な城郭で、往時は大小天守をはじめ、櫓49、櫓門18、城門29がありました。明治10年（1871）、西南戦争開戦直前の火災により、大小天守・本丸御殿などを焼失しました。現在、宇土櫓をはじめ13棟の建造物が国の重要文化財に、熊本城全域が特別史跡に指定されています。

## 熊本城　災害の歴史

熊本城が災害により被害を受けたのは初めてではありません。寛永2年（1625）に発生した地震では、天守や石垣が破損し、火薬を納めた煙硝蔵が爆発するという被害がありました。さらに、大雨や洪水でも、たびたび被害を受けています。また、明治22年（1889）の地震では、石垣42箇所で崩落、20箇所で膨らみが生じ、崖7箇所が破損したという、詳細な記録が残されています。被害の復旧には多額の費用が必要でしたが、当時熊本城を管理していた陸軍により、修復が行なわれました。

◀「震災ニ関スル諸報告」（宮内公文書館所蔵）

明治22年（1889）の地震による熊本城の被害の報告書。報告書の最後には1/1200縮尺の図（下図）があり、石垣が崩落した場所を黄色、膨らみが生じた場所を赤色で塗り分けています。



▲本丸中心部の被害状況（図の左が北を示す）

## 熊本の写真師冨重利平が撮影した熊本城の被害の様子

画像提供：国立科学博物館

▲旧熊本城西出丸　第六師団火薬庫崩壊之景

▲旧熊本城飯田丸　第六師団弾薬庫上石垣崩壊之景

▲旧熊本城閻ガリ　第六師団本部石垣崩壊之景

## ■熊本城略年表

赤字は主な被災履歴

**2代44年　加藤家**

| | |
|---|---|
| 天正16年（1588） | 加藤清正、肥後半国の領主となる |
| 天正19年（1591） | 隈本城の改修に着手 |
| 慶長4年（1599） | このころ、茶臼山に新城の築城着手（一説に慶長6年着手） |
| 慶長12年（1607） | 新城が完成し、隈本を熊本へ改称 |
| 慶長16年（1611） | 加藤清正死去 |
| 寛永2年（1625） | 忠広が二代藩主となる |
| 寛永9年（1632） | 地震により石垣、天守などに被害 |
| 寛永10年（1633） | 加藤家が改易となり、細川忠利が肥後へ入国 |
| 寛永11年（1634） | 地震と大雨の発生 |
| 寛永17年（1640） | 熊本城東の石垣が崩落 |
| 寛永21年（1644） | 熊本城の改修を江戸幕府に申請 |
| 慶安2年（1649） | 大雨のため石垣破損 |
| 延宝4年（1676） | 大雨洪水のため、石垣・土手・塀・櫓など破損 |
| 宝暦5年（1755） | 大雨のため石垣破損 |
| 寛政4年（1792） | 大雨のため古城の石垣破損 |
| 寛政8年（1796） | 二の丸に藩校時習館開校 |
| 天保15年（1844） | 島原の噴火による津波で領内に甚大な被害 |
| 安政4年（1857） | 大雨洪水により熊本城内石垣等で数箇所破損 |
| 安政6年（1859） | 十四間櫓修理 |
| 万延元年（1860） | 七間櫓修理 |
| 文久元年（1861） | 源之進櫓修理 |
| | 監物櫓修理 |
| | 東十八間櫓、北十八間櫓、五間櫓修理 |

**11代239年　細川家**

| | |
|---|---|
| 慶応元年（1865） | 田子櫓修理 |
| 慶応2年（1866） | 四間櫓、不開門修理 |
| 明治4年（1871） | 廃藩置県 |
| 明治5年（1872） | 明治天皇巡幸 |
| 明治7年（1874） | 熊本城内が陸軍用地に編入、本丸に熊本鎮台本営が移転 |
| 明治9年（1876） | 神風連の変 |
| 明治10年（1877） | 西南戦争。火災により大小天守・本丸御殿などを焼失する |
| 明治22年（1889） | 熊本地震（金峰山地震）。石垣42箇所崩落、20箇所孕み、崖7箇所崩落の被害 |
| 昭和2年（1927） | 宇土櫓の解体修理 |
| 昭和25年（1950） | 国宝建造物が重要文化財に改称（文化財保護法改正） |
| 昭和20～30年代 | 重要文化財建造物の解体修理 |
| 昭和30年（1955） | 熊本城全域が特別史跡に指定される |
| 昭和35年（1960） | 鉄筋コンクリート造にて大小天守が再建される |
| 昭和50年代 | 重要文化財建造物の部分修理 |
| 平成元年（1989） | 数寄屋丸二階御広間復元 |
| 平成3年（1991） | 宇土櫓の半解体修理 |
| 平成5年（1993） | 台風19号により重要文化財・石垣に被害 |
| | 旧細川刑部邸を東子飼町から三の丸に移築復元 |
| 平成10年（1998） | 熊本城復元整備事業始まる |
| 平成14年（2002） | 南大手門復元 |
| 平成15年（2003） | 戌亥櫓、未申櫓、元太鼓櫓復元 |
| 平成17年（2005） | 飯田丸五階櫓復元 |
| 平成20年（2008） | 本丸御殿大広間復元 |
| 平成26年（2014） | 馬具櫓復元 |
| 平成28年（2016） | 熊本地震 |

①大天守・小天守　大天守の瓦崩落、大天守・小天守台石垣の一部崩壊

②宇土櫓　続櫓倒壊、壁漆喰・床など破損

③飯田丸五階櫓
外壁ひび割れ、下部石垣崩落によるたわみ

④飯田丸五階櫓　竹の丸より
角石のみで櫓を支えている

# 熊本城の地震被災状況

⑤長塀　東側 80m 倒壊

⑥頬当御門周辺　通路両面の石垣崩落

⑦東十八間櫓　石垣崩壊による櫓倒壊

## 「熊本城の地震被害」（平成29年3月）

### 平成28年４月14日　21時26分「前震 M6.5」

| 種　類 | 被害数量 | 内　容 |
|---|---|---|
| 重要文化財建造物 | 10棟 | 長塀80m崩壊、９棟は瓦・外壁落下など |
| 復元建造物 | ７棟 | 天守閣瓦落下、壁ひび、塀崩壊など |
| 石垣 | 崩落６箇所 | 膨らみ・緩み多数 |

### 平成28年４月16日 1時25分「本震 M7.3」

※前震での被害を含む

| 種　類 | 被害数量 | 内　容 |
|---|---|---|
| 重要文化財建造物 | 13棟 | 倒壊2棟、一部倒壊3棟。他は屋根・壁破損など |
| 復元建造物 | 20棟 | 倒壊５棟。他は下部石垣崩壊、屋根・壁破損など |
| 石　垣 | 崩落・膨らみ・緩み 517面<br>（うち崩落50箇所、229面） | 約23,600㎡（全体の29.9%）<br>（うち崩落約8,200㎡（全体の10.3%）） |
| 地　盤 | 陥没・地割れ70箇所 | 約12,345㎡ |
| 便益施設・管理施設 | 26棟 | 屋根・壁破損など |

熊本城全体の石垣　：　973面、約79,000㎡
特別史跡熊本城跡の土地面積：約512,000㎡

⑧北十八間櫓　石垣崩壊による櫓倒壊

⑨西大手櫓門　東側櫓台石垣崩落による傾き

⑩二の丸御門　通路両面の石垣崩落

⑪百間石垣　３ヶ所で崩落、石材が市道を塞ぐ（８月１日開通）

⑫宮内橋周辺　ほぼ全長にわたる崩落（８月１日開通）

⑬戌亥櫓　下部石垣崩壊によるたわみ、櫓台石垣より東側全長崩落

⑭備前堀　堀東側の石垣全長崩落

⑮数奇屋丸　無数の地割れを確認、前面石垣崩落